

## 防災歳時記 (55)

# —やまじ風公園—

NHK 放送用語委員会専門委員

元 気象庁天気相談所長

宮澤 清治

### 日本の三大悪風

地形などの影響で、狭い範囲に吹く風を局地風といい、強風を伴うことが多い。日常生活や農業・漁業などに大きな影響を及ぼし、土地固有の名で呼ばれる。

愛媛県宇摩地方の四国中央市(旧・川之江市、伊予三島市、土居町、新宮村)一帯や新居浜市付近では、強い南寄りの風が四国山地・法皇山脈を越えて吹き下りる。最大風速30~40m/sに達し、フェーン現象を伴う。やまじ風と呼び、一説には矢のように速く吹く“まじ(南風)”だからと言う。

やまじ風は、台風や強い低気圧が黄海や日本海東部にあるときに吹きやすい。

岡山県那岐山ろくの奈義町・勝北町広戸付近では、強い北寄りの風が中国山地から吹き下りる。ときに最大瞬間風速50m/sを超え、広戸風と呼ぶ。広戸とは、山ろくの南斜面から広野に入る戸口の意味。

広戸風は、台風や強い低気圧が四国沖や紀伊半島沖を東進するときに吹きやすい。

山形県東田川郡立川町清川(現・庄内町)付近では、強い東寄りの風が最上川の狭い峡谷を通過して平野や海上に向かって吹き出

す。最大風速15~20m/sに達し、清川だしと呼ぶ。だしとは、日本海に船を押し出す東風の意味。

だし風は3~6月ごろ、三陸沖に高気圧が、日本海に低気圧があるときに吹きやすい。

やまじ風・広戸風・清川だしを「日本の三大悪風」または「日本の三大局地風」などと呼ぶ。

### やまじ風公園

やまじ風を逆手にとり、町おこしに利用しようと平成6(1994)年、四国中央市土居町に「やまじ風公園」が造られた。東西に連なる緑豊かな雄大な法皇山脈を背景に広がる公園の、小高い丘の上に風向風速計がある。

丘から下る長さ105mのローラー滑り台は圧巻だ。シンボルである「風のホルン」は、やまじ風をマイク状になっているホルンで受けて独特の音色を奏でる。野球場・サッカー場もあり、土曜日・祝祭日は家族連れでにぎわう。



写真1 やまじ風公園



写真2 風のホルン

### 悪い風転じて宝の風となす

災害史に残る被害としては、1951(昭和26)年10月14日にルース台風が九州から山陰沖に進んだとき最大瞬間風速 50m/s のやまじ風が吹き、四国中央市寒川・豊川地区で40戸の全壊家屋をだした。

最近では、1991(平成3)年9月27日の台風19号(リンゴ台風)が山陰沖を進んだとき、伊予三島の南の翠波高原(標高800m)で最大瞬間風速73.2m/sを観測し送電鉄塔11基が倒壊した。

2007(平成19)年3月24日、山陰沖を東進した爆弾低気圧のため、フェーン現象を伴ったやまじ風が吹いた。この日の最高気温は伊予三島で20.4℃、西に約35km離れた西条市で12.1℃だった。昇温と異常乾燥を伴うので、火災の発生に注意したい。

やまじ風に備えて、宇摩地方ではコンクリート建の住宅や屋根に重し石を載せ漆喰で固めた家々が見られる。

やまじ風の農業への影響は深刻だが、先人たちの努力によって、風に強い作物として地中に育つ里芋、つぐね芋(山の芋)が栽培され特産物になっている。

フェーン現象で昇温した空気が海水を暖める。そこに魚が寄ってくるのでやまじ風は恵みの風でもあると寒川の漁師は語る。

秋田民謡の生保内節を思い出した。

吹けや生保内東風 七日も八日も  
吹けば宝風 稲みのる

三陸沖から吹いてくる冷湿な東風の「やませ」は、東北地方の太平洋側に冷害をもたらす。この風が奥羽山脈を越えて吹き下ろすときはフェーン現象で昇温する。生保内地方(現・仙北市)の農家は高温の東風が長く吹けば豊作になるといって喜ぶ。

面倒な風も、恵みの風や宝の風となると、いたずらっ子みたいで愛着がわいてくる。